

御国の福音

—イントロダクション—

I. はじめに

A. 神の計画を理解する

1. 神の計画の目的は「神の栄光」である。その目的を実現させる手段は「御国の計画」である。

(1) 聖書の中には重要なテーマがたくさんある。(以下に例示)

- a) 契約
- b) 約束
- c) 神の栄光
- d) 救い
- e) 律法
- f) 神の民
- g) ディスペンセーション

(2) ある人は、聖書の中で一番重要なテーマは「神の栄光」であるという。またある人は、それは「契約」、「神の民」、「救い」、あるいは「ディスペンセーション」であるという。しかし、どのテーマが一番重要であるかを決めるのは難しい。

(3) 本シリーズでは、「御国の計画」を通して、聖書全体を概観していくことを試みる。

- a) 「御国」(the kingdom of God) は創世記1章～黙示録22章まで聖書全体に見受けられる概念である。
- b) 旧約聖書の契約／約束の中には「御国」という概念が満ちている。
- c) バプテスマのヨハネとイエスの働きは、ともに「天の御国は近づいた」という宣言で始まった(マタ3:1-2; 4:17)。
- d) 新約聖書の終末論は、イエスの再臨とイエスの御国に焦点を当てている。

(4) 次回以降は、以下のテキストに基づいて学んでいく。

- a) マイケル・ヴラック著『He Will Reign Forever: A Biblical Theology of the Kingdom of God』(2017年)¹

2. 聖書の物語の流れ(ストーリーライン)は「神の栄光」というゴールに向かう。このストーリーラインの軸は「御国の計画」である。

B. 御国の計画が聖書の軸であることの例証（「III. 御国の計画」も参照）

創世記 1:26-28 人間に課せられた最初の役割

1:26 神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」

1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

1:28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

創世記 12:1-3 アブラハム契約における御国の要素

12:1 【主】はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。

12:3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

サムエル記第二 7:15-16 ダビデ契約における御国の要素

7:15 しかしわたしの恵みは、わたしが、あなたの前から取り除いたサウルからそれを取り去ったように、彼から取り去られることはない。

7:16 あなたの家とあなたの王国は、あなたの前にとこしえまでも確かなものとなり、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。」

詩篇 2:1-9 詩篇における最初の御国の要素

2:1 なぜ 国々は騒ぎ立ち

もろもろの国民は空しいことをたくらむのか。

2:2 なぜ 地の王たちは立ち構え

君主たちは相ともに集まるのか。

【主】と 主に油注がれた者に対して。

- 2:3 「さあ 彼らのかせを打ち碎き
彼らの綱を解き捨てよう。」
- 2:4 天の御座に着いておられる方は笑い
主はその者どもを嘲られる。
- 2:5 そのとき主は 怒りをもって彼らに告げ
激しく怒って 彼らを恐れおののかせる。
- 2:6 「わたしが わたしの王を立てたのだ。
わたしの聖なる山 シオンに。」
- 2:7 「私は【主】の定めについて語ろう。
主は私に言われた。
『あなたはわたしの子。
わたしが今日 あなたを生んだ。』
- 2:8 わたしに求めよ。
わたしは国々をあなたへのゆずりとして与える。
地の果ての果てまで あなたの所有として。
- 2:9 あなたは 鉄の杖で彼らを牧し
陶器師が器を砕くように粉々にする。』

ルカの福音書 1:31-33 イエス・キリストは御国の王である

- 1:31 見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。
- 1:32 その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。
- 1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。

マタイの福音書 5:3、10 御国に関するイエスの教えの例

- 5:3 心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。
- 5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。

コリント人への手紙第一 15:22-25 御国に関するパウロの教えの例

- 15:22 アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。
- 15:23 しかし、それぞれに順序があります。まず初穂であるキリスト、次にその来臨のとき

にキリストに属している人たちです。

15:24 それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、王国を父である神に渡されます。

15:25 すべての敵をその足の下に置くまで、キリストは王として治めることになっているからです。

ヨハネの黙示録 1:6 御国に関するイエスによる啓示（1）

1:6 また、ご自分の父である神のために、私たちを王国とし、祭司としてくださった方に、栄光と力が世々限りなくあるように。アーメン。

ヨハネの黙示録 2:26 御国に関するイエスによる啓示（2）

2:26 勝利を得る者、最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与える。

ヨハネの黙示録 20:4 御国に関するイエスによる啓示（3）

20:4 また私は多くの座を見た。それらの上に座っている者たちがいて、彼らにはさばきを行う権威が与えられた。また私は、イエスの証しと神のことばのゆえに首をはねられた人々のたましいを見た。彼らは獣もその像も拝まず、額にも手にも獣の刻印を受けていなかった。彼らは生き返って、キリストとともに千年の間、王として治めた。

ヨハネの黙示録 22:3-5 御国に関するイエスによる啓示（4） 聖書の最後の章にて

22:3 もはや、のろわれるものは何もない。神と子羊の御座が都の中にあり、神のしもべたちは神に仕え、

22:4 御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の御名が記されている。

22:5 もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、ともしびの光も太陽の光もない。彼らは世々限りなく王として治める。

II. 「御国」とは？

A. 聖書において「御国」を表す言葉

1. ヘブル語「*malkuth*」

(1) 意味：王位、王権、統治、王国

(2) 新改訳 2017 における訳語としては王国、統治、治世など。

(3) New American Standard Bible (NASB) のヘブル語コンコルダンス（語句集）によれば、旧約聖書で 91 回使われている。

(4) 似た意味の言葉である「*mamlakah*」は 117 回使われている。

2. ギリシャ語「*basileia*」

(1) ヘブル語の *malkuth* と似た意味を持つ。

(2) 新改訳 2017 における訳語としては御国、国、王国、支配など。

(3) NASB ギリシャ語コンコルダンスでは、新約聖書で 163 回使われている。

3. 聖書における「王国」という概念には、最低でも 3 つの要素が含まれている。

(1) 公正でふさわしい統治者（王）の存在

(2) 支配される領域

(3) 支配の実行

4. 王国の 3 つの要素のうち、どれか 1 つの意味で「王国」という言葉が使われていることもある。

(1) ヨハネの黙示録 1:6 では、信者が「王国」といわれている。

(2) ヨハネの黙示録 5:10 でも信者が「王国」と呼ばれている。彼らは実際に王として「地を治める」ことになるので、実際には「王国」の 3 つの要素が含まれている。

(3) ルカの福音書 19:12 では「王位 (*basileia*) を授かって」という言葉が出てくる。これは、

王国を支配する権威のことである。

参考：ルカ 19:12 における *basileia* の訳文比較

- a) 「王位」(新改訳 2017)
- b) kingdom (NASB、English Standard Version [ESV])
- c) authority to be king (Christian Standard Bible [CSB])

5. 本講義では今後、「御国」と「王国」を同じ意味で使う。

B. 王国の概念：聖書が教える御国／王国には、少なくとも 2 種類の概念がある。

1. 普遍的王国

(1) いついかなる時でも、神の主権と支配が天の御座から被造物全体に及んでいる状態を指す。

(2) 詩篇 145:13

あなたの王国は 永遠にわたる王国。

あなたの統治は 代々限りなく続きます

(3) 詩篇 103:19

主は 天にご自分の王座を堅く立て

その王国は すべてを統べ治める。

2. 地上的王国

(1) 代理人を通じた地上における神の支配を指す。

(2) この種類の王国では、神の御心が仲介人を通して地上で実現される。よって、仲介的王国 (mediatorial kingdom) という呼び方がされることもある²。

(3) この地上的王国は、将来実現するものである。

御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように。(マタ 6:10)

(4) 以下の聖句は、この地上的王国がメシアを通じた支配によって確立されると教えている。

a) 詩篇 2:6-9

b) ダニエル書 2:44

この王たちの時代に、天の神は一つの国を起こされます。その国は永遠に滅ぼされるこ

とがなく、その国はほかの民に渡されず、反対にこれらの国々をことごとく打ち砕いて、滅ぼし尽くします。しかし、この国は永遠に続きます。

c) ヨハネの黙示録 11:15

第七の御使いがラッパを吹いた。すると大きな声が天に起こって、こう言った。「この世の王国は、私たちの主と、そのキリストのものとなった。主は世々限りなく支配される。」

(5) よって、将来実現する地上的王国は「メシア的王国」でもある。

3. 普遍的王国と地上的王国の違い³

(1) 時間に関する差異

- a) 普遍的王国は永遠の昔から常に存在している。
- b) 地上的王国は将来実現する。

(2) 領域に関する差異

- a) 普遍的王国の領域は宇宙全体に及ぶ。
- b) 地上的王国の領域は地上に限定される。

(3) 統治形態に関する差異

- a) 普遍的王国では神が直接的に統治される。
- b) 地上的王国では神が人間を用いて間接的に統治される。

4. イエス・キリストによって地上的王国が完成した後、王国は父なる神に渡される。普遍的王国と地上的王国はひとつとなり、永遠の御国（新天新地）が実現する。

(1) コリント人への手紙第一 15:24

それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、王国を父である神に渡されます。

(2) コリント人への手紙第一 15:28

そして、万物が御子に従うとき、御子自身も、万物をご自分に従わせてくださった方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。

III. 御国の計画 (図1 参照)

A. 創造 (Creation)

神は全世界の創造主であり、王である。その神はご自身の似姿として人を創造され、被造物を支配するという役割をお与えになった。

B. 墮落 (Fall)

人は墮落し、神の被造物を治めるという任務に失敗した。神の似姿 (人間) と被造世界全体が墮落の破壊的な影響を受けた。

C. 約束 (Promise)

「女の子孫」(創 3:15) がサタンの力を打ち砕くという約束が与えられた。約束の具体的な内容は旧約聖書全体を通して啓示されていく。その約束によれば、将来墮落した状態は覆され、人は被造世界を治めるという役割を果たすようになる。

D. 贖い (Redemption)

王であるイエスが十字架の死によって贖いをもたらされた。この贖いは御国と「万物の和解」(コロ 1:20) の土台である。

E. 回復 (Restoration)

イエスが王として地上を治めることにより、神の御国の計画は成就し、全てが回復される。そして、このイエスの御国は、父なる神の完璧な御国とひとつになる。



図1 御国の計画 (Kingdom Program) ⁴

IV. 千年王国説

A. 千年王国／千年期について

1. キリストにより成就する地上的王国の期間は、ヨハネの黙示録 20:4 によれば「千年の間」である。したがって、この地上的王国（メシア的王国）は千年王国（the millennial kingdom）とも呼ばれる。
2. 「千年の間」という期間は千年期（the millennium）とも呼ばれる。
3. 本講義では、千年間の王国を指す用語として「千年王国」、その期間自体を指す用語として「千年期」を用いていく。
4. 補足：「millennium」という言葉について⁵
 - (1) 「Millennium」はラテン語である。
 - (2) これは mille（1,000）と annum（年）から成る合成語である。
 - (3) 「Millennialism」となると、千年王国説、千年王国を信じる信仰などを意味するようになる。

B. 3つの千年王国説

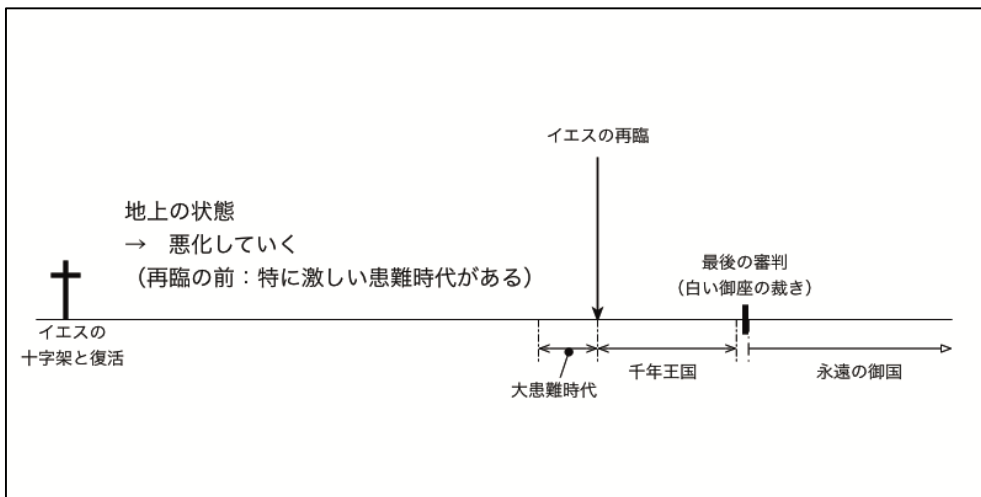
1. 千年期前再臨説（premillennialism）
 - (1) 千年期の前にキリストが再臨し、地上における千年王国が成就し、それから永遠の御国がもたらされると考える立場である。
 - (2) 千年王国は文字通りの理想的な地上的王国／メシア的王国であるとされている。
 - (3) 「千年の間」という期間は文字通りに解釈されることも、比喩的に解釈されることもある。
 - (4) 本講義では、この千年期前再臨説の立場を採用している。
 - (5) この立場における終末論の基本的な考え方については、図 2-a) を参照のこと。

2. 無千年期説 (amillennialism)

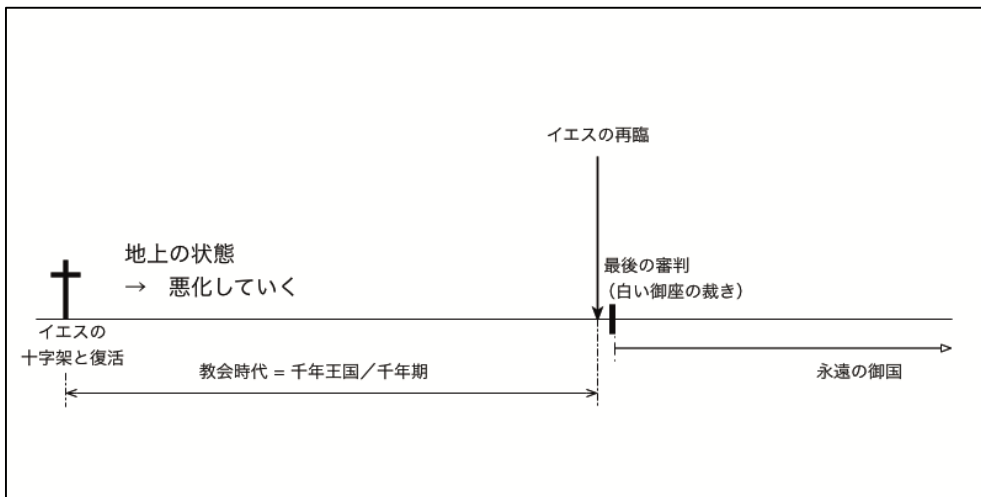
- (1) 千年王国／千年期におけるイエスと聖徒たちによる支配は、現在（イエスの初臨と再臨の間で）霊的に成就していると考えられる立場である⁶。
- (2) 「A」は「no」という意味であり、「amillennialism」という言葉は「千年王国はないと考える千年王国説」という意味になる。しかし、この立場では「千年期はない」と言われているわけではない⁷。
- (3) この立場における終末論の基本的な考え方については、図 2-b) を参照のこと。

3. 千年期後再臨説 (postmillennialism)

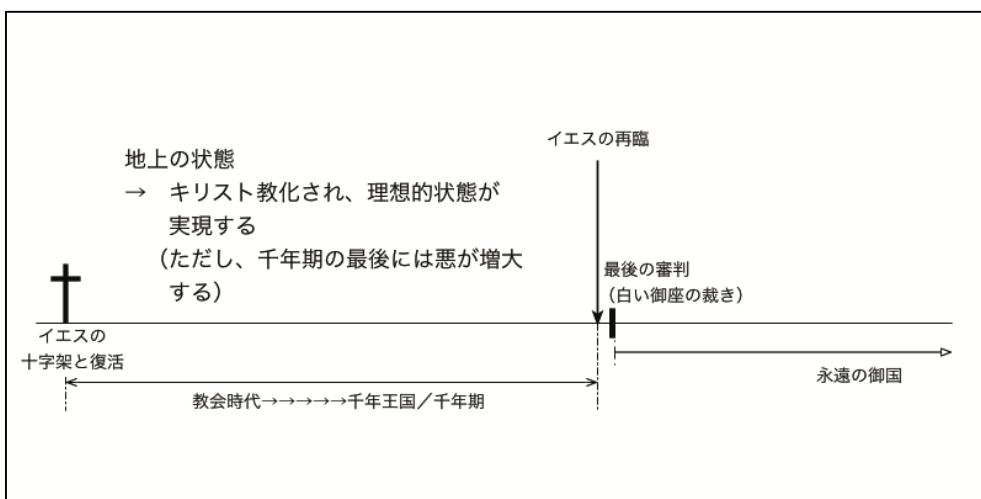
- (1) 教会の福音宣教によって世界が徐々に変えられていき、地上に理想的な千年期が実現した後、イエスが再臨すると考える立場である。千年期後再臨主義者は、この理想的状態のことを「黄金時代」と表現することもある⁸。
- (2) 実際に地上で理想的状態が実現するという点では、千年期前再臨説と似ている。
- (3) 千年期を「イエスが天から地上を統治している状態」と比喩的に解釈する点では、無千年王国説と似ている。
- (4) 世界がキリスト教化されることによって良くなっていくと考える点では、千年期前再臨説とも、無千年王国説とも異なっている。
- (5) この立場における終末論の基本的な考え方については、図 2-c) を参照のこと。



a) 千年期前再臨説



b) 無千年王国説



c) 千年期後再臨説

図2 3つの千年王国説における終末論の概要⁹

C. なぜ千年期前再臨説なのか？

1. 諸契約、諸約束の成就として¹⁰

(1) 聖書で語られている約束や預言には、既に字義通りに成就したものがある。

以下に例を示す。

- a) アブラハムに子が与えられるという約束（創 15:4-5；17:16）
- b) エジプトでの苦難と出エジプト（創 15:13-14）
- c) ダビデの子ソロモンによる王位継承と、ソロモンの不信仰への矯正的裁き（Iサム 7:12-14）
- d) バビロン捕囚から 70 年後の帰還（エレ 29:10；エズ 1:1-2）
- e) ペルシャのキュロス王によるバビロン捕囚からの解放（イザ 45:1-13；エズ 1:1-2）
- f) メシアの地上生涯に関する諸々の預言
- g) ローマ帝国による第二神殿破壊とエルサレム陥落（ダニ 9:26；ルカ 21:6、20-24）

(2) 聖書で語られている約束や預言には、未だ字義通りに成就していないものがある。

以下に例を示す。

- a) イエスの地上再臨（マタ 24:29-31；使 1:11；黙 19:11-21）
- b) イスラエルの約束の地の全所有（創 15:18-21）
- c) ダビデの王座の永遠の確立（Iサム 7:16；イザ 9:6-7；エレ 23:5-6；33:14-17）
- d) イスラエル民族の救いと回復（申 30:1-10；エレ 31 章；エゼ 36 章；マタ 23:37-39；ロマ 11:26-27 など）
- e) 動物界の回復（イザ 11:6-8；65:25）

(3) 神は歴史において、ある約束を字義通りに成就させられた。したがって、未だ成就していない約束についても、字義通りの成就を期待するのは自然なことである。

(4) 神はお与えになった約束を必ず成就される方である。

(5) 未だ実現していない約束が成就するには、再臨されたイエスが地上を治める理想的な王国（地上的王国／メシア的王国）が実現する必要がある。

2. 「最後のアダム」としてのイエスの役割の成就として¹¹

(1) アダムは被造世界（普遍的王国）の王である神の「かたち」「似姿」に造られた。そして、神の代理として地上を統治するよう命じられた（創 1:26-28）。

(2) 人は墮落したが、被造世界を統治する権限は失っていない。

a) 詩篇 8:4-8

⁴人とは何ものなのでしょう。

あなたが心を留められるとは。

人の子とはいったい何ものなのでしょう。

あなたが顧みてくださるとは。

⁵あなたは、人を御使いより

わずかに欠けがあるものとし

これに栄光と誉れの冠を

かぶらせてくださいました。

⁶あなたの御手のわざを人に治めさせ

万物を彼の足の下に置かれました。

⁷羊も牛もすべて また野の獣も

⁸空の鳥 海の魚 海路を通うものも。

(3) 人は未だ被造世界の統治に成功していないが、それは将来実現する。

a) ヘブル人への手紙 2:5-8

⁵というのも、神は、私たちが語っている来たるべき世を、御使いたちに従わせたのではないからです。⁶ある箇所、ある人がこう証ししています。

「人とは何ものなのでしょう。

あなたがこれを心に留められるとは。

人の子とはいったい何ものなのでしょう。

あなたがこれを顧みてくださるとは。

⁷あなたは、人を御使いより

わずかの間低いものとし、

これに栄光と誉れの冠をかぶらせ、

⁸万物を彼の足の下に置かれました。」

神は、万物を人の下に置かれたとき、彼に従わないものを何も残されませんでした。それなのに、今なお私たちは、すべてのものが人のしたに置かれているのを見てはいません。

(4) イエス・キリストは究極的な人間であり、「最後のアダム」である(1コリ 15:45; ロマ 5:14)。最後のアダム = イエスが、被造世界の統治に成功する。イエスが地上的王国を父なる神に渡し、永遠の御国が到来するのはその後のことである。

a) コリント人への手紙第一 15:24-28

²⁴それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、王国を父である神に渡されます。²⁵すべての敵をその足の下に置くまで、キリストは王として治めることになっているからです。²⁶最後の敵として滅ぼされるのは、死です。²⁷「神は万物をその方の足のしたに従わせた」のです。しかし、万物が従わせられたと言うとき、そこには万物をキリストに従わせた方が含まれていないことは明らかです。²⁸そして、万物が御子に従うとき、御子自身も、万物をご自分に従わせてくださった方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。

(5) イエスをご自分に従う者たちと共に地上的王国を統治される。これによって、アダムを通して人類に与えられていた「地を従えよ」という命令が成就する。

a) ヨハネの黙示録 2:26-27

²⁶勝利を得る者、最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与える。²⁷彼は鉄の杖で彼らを牧する。土の器を砕くように。

b) ヨハネの黙示録 3:20-21

²⁰見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。²¹勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせる。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。

c) ヨハネの黙示録 5:10

私たちの神のために、彼らを王国とし、祭司とされました。彼らは地を治めるのです。

V. おわりに

1. 本シリーズの目的

(1) 前橋聖書フォーラムの目的

「聖書をヘブル（ユダヤ）的視点で学び、参加者ひとりひとりが、聖書の著者の意図を汲み出すことができるように、そして、聖書の真理を日々の生活に適用できるような自立した信徒となることを目的として、私たちはともに集まって学んでいます。」

(2) 御国の計画を学ぶことで、創世記から黙示録に至るまでの「聖書のストーリーライン」の概略をしっかりと把握することができる。

(3) 御国の計画を学ぶことで聖書の全体像をつかみ、またヘブル的視点を身につけていく。

2. 「御国」の学びによって得られること

(1) 御国の計画を学ぶことは、私たちに未来の希望を教えてくれる。

- a) イエス・キリストの地上的王国が成就するという希望
- b) その後で永遠の御国が実現するという希望

(2) 未来に関する希望は、私たちに喜びをもたらす。

(3) 喜びは、イエス・キリストにある救いの素晴らしさを実感させてくれる。この実感は伝道の動機となる。

(4) 喜びは、クリスチャン生活にも影響を及ぼしていく。

- a) 再臨を待ち望み、「キリストのように清くありたい」という願いを持って生活する。
- b) とともに御国にあずかる兄弟姉妹たちと、地上で一致していきたいという願いを持って交わりに臨む。

¹ Michael J. Vlach, *He Will Reign Forever: A Biblical Theology of the Kingdom of God* (Silverton, OR: Lampion Press, 2017). Vlach はディスペンセーション主義に立つ米国 The Master's Seminary の神学教授であり (2018 年 3 月現在)、置換神学に関する研究で有名である。主な著書は以下の通り (いずれも未邦訳)。

- *The Church as a Replacement of Israel: An Analysis of Supersessionism*. Frankfurt am Main: Peter Lang, 2009. (『イスラエルの置換物としての教会：置換神学の分析』)
- *Has the Church Replaced Israel?: A Theological Evaluation*. Nashville, TN: B&H, 2010. (『教会はイスラエルを置き換えたのか：神学的検証』)
- *Premillennialism: Why There Must Be a Future Earthly Kingdom of Jesus*. Los Angeles, CA: Theological Studies Press, 2015. (『千年期前再臨説：将来におけるイエスの地上的王国が必要な理由』)
- *Dispensationalism: Essential Beliefs and Common Myths*. Revised edition. Los Angeles, CA: Theological Studies Press, 2017. (『ディスペンセーションナリズム：本質的信念とよくある誤解』)

なお、本講義は本書 1~3 章および 36、37 章の内容をふまえたものである。

² Alva J. McClain, *The Greatness of the Kingdom: An Inductive Study of the Kingdom of God* (Winona Lake, IN: BMH Books, 1959), 21; William D. Barrick, "The Kingdom of God in the Old Testament," *The Master's Seminary Journal* 23/2 (Fall 2012): 173. Cf. Bruce K. Waltke, "The Kingdom of God in the Old Testament: Definitions and Story," in *The Kingdom of God*, eds. Christopher W. Morgan and Robert A. Patterson (Wheaton, IL: Crossway, 2012), 49-51.

³ 中川健一『一日でわかる「千年王国論」』(ハーベスト・タイム・ミニストリーズ、2017 年) 66-71 頁。

⁴ Vlach, 23.

⁵ 中川、14 頁。

⁶ John MacArthur and Richard Mayhue, eds., *Biblical Doctrine: A Systematic Summary of Bible Truth* (Wheaton, IL: Crossway, 2017), 884.

⁷ Ibid. なお、無千年王国主義者の中には、イエスの再臨によってもたらされる地上的祝福を認め、そういった祝福が全て成就するのが永遠の御国であると主張する者もいる。Robert B. Strimple, "An Amillennial Response to Craig A. Blaising," in *Three Views on the Millennium and Beyond*, ed. Darrell L. Bock (Grand Rapids: Zondervan, 1999), 258-60. このような考えをとる代表的な無千年王国主義者としては、ゲルハルドス・ヴォス (Geerhardus Vos)、アンソニー・フーケマ (Anthony Hoekema)、G・K・ビール (G. K. Beale) など。

⁸ Loraine Boettner, "Postmillennialism," in *The Meaning of the Millennium: Four Views*, ed. Robert G. Clouse (Downers Grove, IL: InterVarsity Press, 1977), 117.

⁹ 図の作成に当たっては下記文献におけるチャートを参考にした。岡山英雄『小羊の王国——黙示録は終末について何を語っているのか』改訂版(いのちのことば社、2016 年) 209 頁; Paul N. Benware, *Understanding End Times Prophecy: A Comprehensive Approach*, rev. ed. (Chicago: Moody Publishers, 2006), 127, 146.

¹⁰ Vlach, 561-63.

¹¹ Vlach, 543-50. Cf. Sung Wook Chung, "Toward the Reformed and Covenantal Theology of Premillennialism," in *A Case for Historic Premillennialism: An Alternative to "Left Behind" Eschatology*, eds. Craig L. Blomberg and Sung Wook Chung (Grand Rapids: Baker, 2009), 133-47.